

## 29P-am147Q

竹葉石膏湯由来多糖体の in vivo での単純ヘルペスウイルス感染症に対する有効性の評価

○深井 朋子<sup>1</sup>, 林 京子<sup>1</sup>, 李 貞範<sup>1</sup>, 林 利光<sup>1</sup>(<sup>1</sup>富山大院薬)

【目的】竹葉石膏湯は、竹葉、石膏、半夏、人參、甘草、粳米、および麦門冬を構成生薬とし、発熱性疾患において炎症を鎮静させ脱水を改善する処方である。主に小児や老人の肺炎・気管支炎、感冒などを適応とする方剤であることから、感染症に対して有用な処方の一つであると考えられる。我々はこの竹葉石膏湯煎液より中性多糖体 (CSH<sub>1</sub>-1) を単離し、in vitro での抗ウイルス活性を検討して、単純ヘルペスウイルス 2 型 (HSV-2) に対する増殖阻害作用のあることを既に報告している。<sup>1)</sup> 今回、本物質の in vivo での抗 HSV-2 活性の評価について報告する。

【方法】竹葉石膏湯を熱水抽出した後、各種クロマトグラフィーを用いて分画を行い、イヌリン型フルクタン (CSH<sub>1</sub>-1) を得た。HSV-2 に対する in vivo 抗ウイルス活性は、性器感染マウスモデルを用いて、局所洗浄液中のウイルス量、発症の程度、及び生存率から評価した。

【結果及び考察】HSV-2 性器感染モデルにおいて、CSH<sub>1</sub>-1 は感染後に投与した群に比べて、感染前に投与した群のほうが、症状の進行を抑える傾向が認められ、生存日数が延長した。感染 3 日後の局所ウイルス量には投与群と対照群との間に差がみられなかった。このことから CSH<sub>1</sub>-1 は、生体においては HSV-2 の増殖を直接的に阻止するのではなく、感染防御機能に関与し、結果的に性器ヘルペスの症状を緩和する可能性が示唆された。免疫系に対する本物質の効果を現在検討中である。

1) 日本薬学会第 129 年会要旨集 2, p.215 (2009, 京都)